



スレイリーダーから

プレイリーダーていがです。

最近のうさぎ山では、かまどで何かして楽しむことが増えてきている。今回は、かまどでの遊びの一つである、べっこう飴のこについて書いていこうと思います。

べっこう飴は、おたまと砂糖、水を使用して作っていきますが、おたまと水はうさぎ山にありますので、砂糖を持参することで、作ることができます。砂糖を忘れたとしても、砂糖を分けてくれる人がいることもあります。砂糖を忘れてきた人に気がついた人が「砂糖使っていいよ」と言って、砂糖を渡していました。二人とも面識はないのですが、飴づくりで人との繋がり、遊びの広がりを感じた瞬間でとてもいい光景でした。

べっこう飴の作り方は、まずおたまに砂糖と水を入れて、沸騰させる。やけど等が心配な人は革手袋をしてね。沸騰したら水に冷やしますが、その際の注意点として、おたまを持って歩き回らないようにしてね。他の人にやけどを負わせてしまう可能性が高いのと、砂糖と水が沸騰したものが身体にかかるのもっと酷い怪我になる可能性があります。べっこう飴作りしている時はお玉を冷やすものを近くに置くようにしてね。

冷やしている時間や最後の加熱時間によって、べっこう飴になるかならないかが決まります。べっこう飴にならなかったとしても、いい経験だと私は思います。最初からできるのは、奇跡に近いことだと思います。今できる人たちも、最初の頃は、できていなかった。出来ない悔しさで「何で自分にはできないんだ～」と言っている人もいます。悔しい表情を見られるのもプレイパークの良さだと思います。

作って食べた後は、おたまをきれいに洗う作業があります。スタッフ VS 子どもの戦いが始まります。子どもたちとスタッフの綺麗なおたまの感覚が違う。洗ってきた、おたまを見せにきますが、おたまに飴がついていて、やり直しになります。やり直しになることが嫌なのか、スタッフに見せずにこっそり戻す子も中にはいます。次に使う子が汚いおたまを見たらどう思うでしょうか。みんなが綺麗にして戻してくれることで、次の人がいい気持ちでべっこう飴づくりをできます。綺麗にするのを嫌々になりながらも、他の遊びや帰るために、文句を言いながらも必死になって洗っています。OKが出るまで頑張っている姿が私は好きです。

食べ物を通じて、楽しいことも嫌なことも感じているのがすごくいいなと思います。

これからも、子どもたちにはいろいろなことに挑戦して多くのことを感じていてもらいたいです。

